

修正版

令和 3 年度
北九州市立図書館の運営に関する評価

令和4年11月
北九州市立中央図書館

北九州市立図書館の運営に関する評価

I 基本的な方向性

- 1 これまでの図書館サービス(図書・資料の閲覧・貸出、レファレンス機能、情報サービスなど)をさらに充実させる。
- 2 市民が抱える課題の解決を支援する。
- 3 子どもの読書活動を積極的に推進していく。

II 令和3年度事業目標

- 1 図書館サービスのさらなる充実を目的に、障害者サービス・多文化サービスを強化する。
- 2 市民の課題解決支援を目的に、「健康・医療」「福祉・介護・年金」「仕事を進める上での能力アップ」の視点からのサービスを充実する。
- 3 子どもの読書活動推進を目的に、子ども図書館を拠点として、学校関係者の人材育成支援・子ども司書などの養成に取り組む。

III 総括

① 令和3年度 事業目標に対する達成状況

1. 図書館サービスのさらなる充実を目的に、障害者サービス・多文化サービスを強化する。
 - 市内の各図書館において、障害のある方に配慮した資料(LLブック、朗読CDなど)の充実を図った。
 - 中央図書館において、障害者就労支援施設の協力による障害者サービス研修を実施し、職員の資質向上を図った。
 - 中央図書館では「やさしい日本語」及び外国語の利用案内リーフレットの配布、「やさしい日本語」で書かれた図書資料の収集など、多文化サービスの取組みを継続して行った。
 - 以上のことから障害者サービス・多文化サービスについて一定の取組みを継続出来た。
2. 市民の課題解決支援を目的に、「健康・医療」「福祉・介護・年金」「仕事を進める上での能力アップ」の視点からのサービスを充実する。
 - 市内の各図書館において、市民の問題解決に役立つ特定のテーマ(健康・医療、高齢者向け、ビジネス支援等)の資料を集めたコーナーの設置や館内展示に継続して取り組んだ。また、令和3年度は新たに保健福祉局と連携し、認知症啓発、発達障害啓発コーナーを設置した。
 - 複数の地区館でメンタルヘルズ講座、健康促進に役立つリンパマッサージ講座、起業や経営に関する課題を解決する無料経営相談会等を実施した。
 - コロナ禍ではあるものの、感染対策を徹底した上で各種講座の開催、課題解決支援のための図書の分野別配架や資料の充実などに積極的に取り組むことができた。
3. 子どもの読書活動推進を目的に、子ども図書館を拠点として、学校関係者の人材育成支援・子ども司書などの養成に取り組む。
 - 学校図書館教育講習会などの場を活用し、「団体貸出等の学校向けサービス」について周知し、積極的な利用を呼びかけた。
 - 「学校貸出図書セット」について、「防災」の図書セットの新設、希望の多い「伝統文化」の図書セットの拡充など、内容の充実を図った。
 - 図書館司書や読み聞かせボランティアの施設への派遣、及びブックヘルパー研修を行い、学校関係者の人材育成支援を行った。
 - 子どもの読書活動の機運を高めるため「北九州市子ども読書の日」を新設した。これに関連して、これまでにない視点でのイベントの実施や、中高生の活動発表する機会の提供などを通じて、図書館の関心を高めることができた。

②総合評価（事業別評価及び運営改善措置）

令和3年度はコロナ禍で図書館運営については、非常に厳しい状況が続いていた。このような中、子ども読書活動の推進を図るため、新たに「北九州市子ども読書の日」を制定した。また「子ども電子図書館」の運営を開始した。今回これらの取組も含めて、全体で52項目で評価した結果は次のとおりとなった（詳細は「IV事業別評価及び運営改善措置」参照）。

事業別評価集計表						
	A評価	B評価	C評価	D評価	評価しない	合計
令和3年度	5	40	1	2	4	52
令和2年度	4	38	3	0	4	49

昨年に比べ、全体的に評価は上昇している。これは国の行動制限の緩和を受けイベントや講座などが再開されたことによるものである。さらに、新しく取り組んだ「子ども読書の日」では、子ども図書館で工夫をこらしてイベントなどを実施し、子どもたちに読書に親しむ機会を創出することができた。さらに、電子図書館は、図書館に来館せずに読書に親しむことが出来たり、不登校や引きこもりの方への読書の機会提供にもつながった。コロナ禍で外出しづらい環境下で効果や今後の可能性を見出すことができ、大いに評価するものである。

なお、今年度から、事業についての「運営改善措置」の項目を追加し、運営改善措置の見える化にも取り組んだ。これは、図書館法の第7条の3の本来の趣旨に沿ったものであるとともに、単に評価することだけで終わらず、常に利用者へのサービス向上のために改善しつづけることが必要だからである。また、改善の有無や改善状況を公表することによって、利用者からの厳しいチェックも期待してのことである。

今回、「運営改善措置」の項目を加えることによって、事業が順調に推移しているものの、まだまだ改善の余地が必要であることも浮かび上がってきた。今後は、取組状況を客観的に俯瞰するとともに、引き続き評価を適正に行いつつ、利用者からの要望にも耳を傾け、日々、運営の改善に努めていく。

《参考資料》

【利用状況の推移】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
貸出者数	909,340人	610,336人	753,590人
貸出冊数	3,423,930冊	2,427,889冊	3,003,649冊
来館者数	2,276,653人	1,077,811人	1,512,386人
レファレンス件数	32,737件	20,648件	23,963件
人口1人当たりの貸出冊数	3.61冊	2.58冊	3.22冊

※新型コロナウィルス感染症の拡大防止のため、令和3年5月12日から6月20日まで臨時休館を行った。

【アンケートによる利用者満足度の状況（「非常に満足」・「満足」の割合）】

	令和2年度	令和3年度
①本の品ぞろえ	87.7%	87.4%
②本の探しやすさ	91.7%	93.5%
③調べ物の役立ちさ	82.6%	89.3%
④展示・行事の内容	79.4%	86.6%
⑤対応の親切さ	92.6%	94.6%
⑥説明の分かりやすさ	87.6%	91.0%
①～⑥の合計	86.9%	90.4%

IV 事業別評価及び運営改善措置

北九州市立図書館では、「これからの図書館サービスのあり方」の中に示された5つの視点に立った取り組みを行っています。

その具体的施策50項目と新たに開始した施策2項目の合計52項目の取組状況について、下記の基準を設けて評価を行います。

<評価の基準>

A	新たな取り組みが行われたり数値が伸びたりするなど、大変順調なもの。
B	継続的・安定的に取り組みが行われたり、数値が一定水準で維持されたりするなど、順調なもの。
C	予定通りに進まなかったり、数値が下降傾向にあったりするなど、やや遅れているもの。
D	全く進展がなかったり、取り組みが行われていなかったりするなど、遅れているもの。
-	評価しない。

※()内は、前年度(令和2年度)の評価

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評価
1 多様な施設とつながる図書館	(1) 文学館などの文化施設との連携	①文化施設の 情報発信	文学館、美術館、松本清張記念館などの文化施設への来館のきっかけづくりのため、文化施設の企画展情報を発信	【取組状況】 ●子ども図書館ほか地区図書館では、美術館分館の企画展「こぐまちゃんとしろくまちゃん」と連動し、特設コーナーの設置やおはなし会、こぐまちゃんの写真撮影会を実施するとともに、特設コーナーを設置し、情報発信を行った。 ●八幡図書館では、北九州芸術劇場と連携した連続戯曲講座を開催した。 ●他にも、各館において、自然史・歴史博物館、美術館、文学館、漫画ミュージアムなど各種文化施設の広報物を図書館内に掲示するとともに、施設の催事に連動した図書資料の展示を行った。 【評価の理由】 ●コロナ禍の中ではあったが、おはなし会等のイベントを実施するとともに、継続して多くの文化施設と連携し、情報の収集や発信に努めた。取組については回数、内容ともコロナ禍以前と同程度の水準を維持したため「B」評価と判断した	B (B)
		② 最寄りの文化施設の 情報発信	各図書館において最寄りの文化施設の図録や資料を設置するなど、文化施設と連携した情報発信	【取組状況】 ●中央図書館では、文学館が発行する文学館文庫や文学館主催文学賞の受賞作品収集や松本清張記念館、美術館分館、芸術劇場などの発行する出版物の収集を行った。 ●門司図書館では九州鉄道記念館、若松図書館では河伯洞、八幡図書館では響ホール、八幡西図書館ではひびしんホールやこどもの館、戸畑図書館では美術館、八幡南分館では長崎街道木屋瀬宿記念館など、各館で最寄りの施設の広報物を図書館内に設置したり、施設の催事に連動して図書館行事を行ったりした。 ●子ども図書館では、文学館の「子どもノンフィクション文学賞」の大賞を受賞した「二平方メートルの世界で」の特設コーナーを設置した。また、文学館、美術館分館、松本清張記念館、小倉城、北九州芸術劇場などの最寄りの施設の広報物を設置した。 【評価の理由】 ●これらにより、最寄りの文化施設と連携した情報発信を継続して行うことができたため、「B」評価と判断した。	B (B)

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評価
		③地元ゆかりの作家作品の充実	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展示の開催	【取組状況】 ●中央図書館の特設文庫「松本清張文庫」、子ども図書館の「私たちのまちの児童文学コーナー」「ふるさと再発見コーナー」、門司図書館の「佐木隆三コーナー」、小倉南図書館の「藤田博士顕彰コーナー」、若松図書館の「火野葦平コーナー」、八幡図書館の「みずかみかずよコーナー」、戸畑図書館の「宗左近記念室」など、各館において、地元出身作家などのコーナーを設け、関連資料の展示を引き続き行った。 ●中央図書館の北九州資料室を中心に、利用の多い松本清張作品の買替えや最近注目が集まっている町田そのこ等、本市ゆかりの人物の著作を購入するなど各館において福岡県・北九州市ゆかりの作家の著作を積極的に購入し、充実を図っている。 ●子ども図書館が実施する「はじめての絵本事業」に、引き続き地元出身作家の絵本「あーそーぼ」を選定し、配布している。 【評価の理由】 ●これらにより、地元ゆかりの作家の蔵書の充実と顕彰が引き続き図られていることから、「B」評価と判断した。	B (B)
		④文化施設とのネットワークの構築 終了事業	文化施設とのネットワークの構築を図るため、中央図書館も文化施設の館長会議に参加	【取組状況】 ●新型コロナウイルス感染症の拡大により文化施設の館長会議は終了（廃止）となった。 【評価の理由】 会議が終了したため評価を行わない。 【運営改善措置】 会議は終了となったが、館長によるトップのネットワークは非常に重要である。このため、事業は終了となったが、引き続き個別施設との館長ネットワークは維持・強化することとする。	— (B)
	(2) 他施設との連携	⑤大学図書館との連携	大学図書館とのネットワークの構築を図るため、 ・北九州市立大学や九州国際大学の図書館との連携の充実 ・市内にある他の大学図書館との連携の検討	【取組状況】 ●図書の相互貸借を北九州市立大学及び九州国際大学と、相互連携協定に基づき実施した。 【評価の理由】 ●上記以外の大学は、協定がなくても個別に相互貸借を行っており「B」評価と判断した。	B (C)

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評価
		⑥大学との連携	大学図書館との連携に止まらず、大学教員などを講師に招いて、講演会や講座を積極的に開催	【取組状況】 ●中央図書館において、九州女子大学からの図書館見学を受け入れるなど、司書資格取得を目指す学生を積極的にバックアップした。 ●門司図書館では、九州工業大学による子ども向けの出前科学講座を開催した。 ●小倉南図書館では、北九州市立大学、地域自治組織と連携し、「若園タウンパレード」の開催に協力した。 ●八幡図書館では、「やはたアートフォレスト」の企画として、九州国際大学の学生と共同で地域のMAP作りや図書館の紹介動画を作成した。 ●子ども図書館では、北九州市立大学地域共生教育センターの「平和の駅運動プロジェクト」「ブンガクの街北九州」発信プロジェクトの学生と、子ども図書館を使った企画について協議した。 【評価の理由】 ●コロナ禍で予定していた大学教員を講師に招いての講座が一部中止になる等の状況にあったが、学生企画への協力を行うなど、できる範囲で連携に努めることができたため、「B」評価と判断した。	B (B)
		⑦ネットワーク(連携)機能の充実	中央図書館が地区図書館や分館へ助言や指導を行い、市立図書館のネットワークを充実	【取組状況】 ●新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全ての図書館の館長が参加する館長会議を毎月開催することは出来なかった。 ●地区図書館の選書担当者が参加して毎週開催する選書会議の場を活用して、新刊図書や推薦図書に関する情報をはじめ図書館サービスに関する様々な情報を全ての図書館と共有した。 ●中央図書館では、事件・事故・災害などの危機管理や市民対応について、地区図書館へ助言を行った。 ●子ども図書館では、学校との連携等について共通理解を図るため、「児童サービス担当者会議」を新設した。 ※令和3年度開催回数4回 【評価の理由】 ●これらにより、中央図書館及び子ども図書館を中心とした本市の図書館網をより強化することができたため、「A」評価と判断した。	A (A)

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評 価																
	(3) 身近なネットワークの構築	⑧市立図書館における観光情報などの提供	市民と観光客を対象にした、北九州市の魅力発信を行うため、 ・中央図書館では全市の観光情報を提供 ・地区図書館では周辺地域の観光情報や地域情報を提供	【取組状況】 ●若松図書館ではグリーンパークや高塔山のイベントのポスター・パンフレットの掲示、八幡図書館では九州国際大学生と共同で作成した「まち歩きマップ」の配布、戸畑図書館では戸畑区等の無料情報誌(歴史探訪等)コーナーの設置を行うなど、各館において市内観光情報や地域情報などに関するチラシ・パンフレットの掲示やイベントに関連した図書の企画展示を行った。 【評価の理由】 ●コロナ禍の中、観光産業自体が依然として縮小傾向にあったが、各図書館において継続して情報の収集・提供を行い市の魅力発信に努めたため、「B」評価と判断した。	B (B)																
		⑨ひまわり文庫の充実	市民センターなどに設置した、ひまわり文庫の蔵書構成などの充実	【取組状況】 ●令和2年度末に西部勤労婦人センターが廃止されたが、令和3年6月に八幡東生涯学習センター尾倉分館に再設置された。 ●令和3年11月に若松区の西14区公民館が廃止され、1か所減となった。 ●市民センター等担当者との情報交換、利用者からのリクエストや貸出し傾向等によってニーズを把握し、利用が見込まれる図書の購入・配本に努めた。 ●他館からの管理換えや寄贈図書の受入れなどにより、図書の再活用とひまわり文庫蔵書の充実に努めた。 【評価の理由】 ●図書館に来館することが困難な市民にとっては、市民センター等でひまわり文庫が利用でき、市民が身近に図書館の本を借りることができる場となっている。前年度に比べ、貸出者数、貸出冊数ともに減少はしたもののコロナ禍においては、図書館を補完する役割を果たしているとして「B」評価と判断した。 【運営改善措置】 ●ひまわり文庫のより一層の充実のため、市民センター及び利用者のニーズを把握し、利用が見込まれる図書の購入・配本を行う。 【ひまわり文庫の状況】 <table><tr><td></td><td>R2年度末</td><td>R3年度末</td></tr><tr><td>設置施設</td><td>128か所</td><td>128か所</td></tr><tr><td>配本数</td><td>73,751冊</td><td>67,735冊</td></tr><tr><td>1か所当たり配本数</td><td>576冊</td><td>532冊</td></tr><tr><td>年間貸出者数</td><td>23,639人</td><td>17,623人</td></tr><tr><td>年間貸出冊数</td><td>55,490冊</td><td>39,864冊</td></tr></table>		R2年度末	R3年度末	設置施設	128か所	128か所	配本数	73,751冊	67,735冊	1か所当たり配本数	576冊	532冊	年間貸出者数	23,639人	17,623人	年間貸出冊数	55,490冊
	R2年度末	R3年度末																			
設置施設	128か所	128か所																			
配本数	73,751冊	67,735冊																			
1か所当たり配本数	576冊	532冊																			
年間貸出者数	23,639人	17,623人																			
年間貸出冊数	55,490冊	39,864冊																			

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評価									
		⑩貸出文庫登録施設数の増加	市民が気軽に本に接する機会を増やすため、幼稚園や保育所などの子育て関連施設や病院、高齢者施設などで利用されている貸出文庫の利用施設を増加	【取組状況】 ●令和3年度は、保育所、放課後児童クラブなど子育て関連施設に新規設置を行った。 【評価の理由】 ●貸出冊数は減ったが、新規設置のニーズには対応しており、施設数では、増となったため、「B」評価と判断した。 【貸出文庫の状況】 <table><tr><td></td><td>R2年度末</td><td>R3年度末</td></tr><tr><td>設置施設</td><td>91か所</td><td>105か所</td></tr><tr><td>配本数</td><td>23,750冊</td><td>21,662冊</td></tr></table>		R2年度末	R3年度末	設置施設	91か所	105か所	配本数	23,750冊	21,662冊	B (B)
	R2年度末	R3年度末												
設置施設	91か所	105か所												
配本数	23,750冊	21,662冊												
【北九州市立図書館協議会による評価】														

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評価
2 市民の課題解決を支援する図書館	(1)レファレンスの強化	①相談内容のデータベース化	これまで長年積み上げてきたレファレンスの事例に、多くの市民が接することができるようにするため、相談内容とその回答をデータベース化し、ホームページで公開	【取組状況】 ●中央図書館参考資料室を中心に各館で受けたレファレンス事例を国立国会図書館レファレンス協同データベースに積極的に登録した。 ●登録件数:令和2年度 197件、令和3年度 270件。(平成30年以降毎年、新規登録件数多数や登録事例の被参照件数多数等により国立国会図書館から表彰を受けている。) ●登録したレファレンスの内容については、市立図書館ホームページにレファレンス協同データベースのリンクを貼ることにより、随時、最新の内容にアクセスできるようにしている。 【評価の理由】 ●レファレンス事例の積み重ねに努めるとともに、インターネットから容易にレファレンス事例にアクセス可能な状態を作っていることから、「B」評価と判断した。	B (B)
		②レファレンス担当職員の能力向上	図書館業務の基本となるレファレンスを担当する職員の能力向上を図るため、体系的な研修を計画、実施	【取組状況】 ●コロナ禍により、集合研修については外部研修への参加、独自研修実施とも困難な面があったが、福岡県立図書館主催のレファレンス研修会には複数館から出席した。 ●国立国会図書館や文部科学省等が主催する研修会等でオンライン(ウェブ会議方式や動画配信)で実施されるものについては、移動を伴わずに受講することが可能であり、各館の職員が視聴した。 ●研修で学んだことを活かして、中央図書館では、北九州の郷土に関する「調べ方の近道案内」を作成、子ども図書館では子どもが調べものをする際の手助けとなる「調べもののおてつだい」をホームページに掲載した。また、小倉南図書館では昨年度に続き、項目を増やすなどパスファインダーの整備を進め、八幡図書館ではホームページにレファレンスのページを新設し、市民からのレファレンスと回答を公開した。 【評価の理由】 ●困難な状況下にあっても様々な機会を捉えてレファレンス担当職員が研鑽に励み、実務にも活かしていることから、「B」評価と判断した。	B (B)
		③レファレンス用図書・資料の充実	多様化・複雑化する市民ニーズに適切に対応するため、レファレンス用図書・資料を充実	【取組状況】 ●各館において、各種レファレンス用資料(事典・辞書類、図鑑、統計類など)の新規購入や新版への更新、行政資料の寄贈受入れなどを行った。 【評価の理由】 ●レファレンス用資料の充実に努めていることから「B」評価と判断した。	B (B)

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評価
	(2) 特色ある図書館づくり	④課題解決支援のための分野別配架と講演会などの実施	・標準的な配架法である「日本十進分類法」を基礎にしながら、市民が抱えている課題に対応するために、テーマごとに図書・資料を並べたり、特設コーナーを設けるなど、市民が図書・資料を探しやすいような分野別配架の実施 ・市民のニーズに応じて、「健康・医療」、「福祉・介護・年金」、「子育て・教育」など、分野別に体系立てた講演会や講座などを実施し、市民の課題解決を支援	【取組状況】 ●各館において、市民の課題解決に役立つ特定のテーマ（健康・医療、高齢者向け、認知症、ビジネス支援など）の資料を集めたコーナーの設置や館内展示に取り組んだ ●中央図書館でガン情報コーナーを設置する等各館で医療情報や健康に関するコーナーを設置している。令和3年度は、各館において保健福祉局と連携し、認知症啓発、発達障害啓発コーナーを設置した。 ●門司図書館、八幡西図書館ではメンタルヘルス講座などを、小倉南図書館では、郷土史についての講座を、若松図書館では、起業や経営に関する課題を解決する無料経営相談会を、戸畑図書館では、健康促進に役立つリンパマッサージ講座を開催した。 ●子ども図書館において、引き続き、 ・平和学習コーナー ・読書感想文特設コーナー ・季節ごとの企画展示コーナー ・地元出身作家コーナー ・世界の絵本と地図のコーナー など、工夫をこらしたコーナーを設け、子どもたちの課題解決支援を行うことができた。 ●子ども図書館及び各地区館・分館に子育て支援コーナーを設置し、妊娠出産や育児・子どもの遊びなど関連本をまとめて配架し、利用しやすい環境を整えている。 【評価の理由】 ●コロナ禍ではあるものの、感染対策を徹底した上で、課題解決支援のための図書の分野別配架や資料の充実などに積極的に取り組むことができたため、「B」評価と判断した。	B (B)

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評 価
		⑤地域の特性などを活かした図書館づくり	特色のある図書館づくりのため、各図書館が地域の特性や地域住民のニーズに応じた図書・資料の配架や講演会などを重点的に実施	【取組状況】 ●門司図書館では、文学賞受賞本、文庫のシリーズ本に、その旨表示するなど、工夫してわかりやすい書架づくりに努めた。 ●小倉南図書館では、読書活動コーナーにおいて小倉南区の城跡、遺跡についてのパネル展示を行った。 ●若松図書館では、高齢者が多い地域のため、高齢者が本を選びやすいよう配慮した配架やシニアコーナー、高齢者就労支援資料コーナーの設置を行った。 ●八幡図書館では製鉄所・世界遺産関連、戸畑図書館では1960年代の戸畑区婦人協議会による環境活動、曾根分館では地域に多い農業従事者向けの園芸関係の本など、周辺の歴史や産業に関連した図書の充実やコーナー設置を行っている。 ●大里分館、曾根分館、八幡西図書館では、子育て世代や児童の利用が多いため、子育て支援関連本や子ども向けの学習漫画やクイズ本などの収集を充実した。 ●島郷分館では、併設の市民センタークラブ利用者に向けた趣味コーナー(パソコン、ヨガ、絵画、写真)を設置している。 ●八幡図書館では、八幡の風景にまつわる切り絵講座を、八幡西図書館では、地域での要望が多かったメンタルヘルス講座を開催した。 【評価の理由】 ●コロナ禍ではあるが、感染対策を徹底して、徐々に講演会や講座を開催できており、各館において、地域の特性を活かした資料収集や提供を継続的に進めることができたため、「B」評価と判断した。	B (B)
		⑥郷土資料の充実	地域の歴史や文化を次世代に伝えるため、地域の郷土資料を充実	【取組状況】 ●各図書館において、購入及び寄贈により郷土に関する図書資料の受入れを行った。 ●子ども図書館が実施する「はじめての絵本事業」に、引き続き地元出身作家の絵本「あーそーぼ」を選定し配布した。 ●子ども図書館の本市の産業や取り組みを紹介する「ふるさと発見コーナー」、八幡図書館の八幡製鉄所関連コーナーなど、各館において、郷土の特色や地元ゆかりの作家などを紹介する特設コーナーを引き続き設置し充実に努めた。 ●門司図書館では、お尋ねの多い古地図及び古写真をパネルをリスト化し、図書館利用者による閲覧を可能とした。 ●戸畑図書館で八幡製鉄所に関する資料の寄贈受入を行うなど、各館の所在区の特色を反映した資料の収集に努めた。 【評価の理由】 ●郷土資料の収集を着実に行うとともに、市民に郷土の魅力を紹介する取り組みを継続的に進めていることから、「B」評価と判断した。	B (B)

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評価
		最寄りの文化施設の情報発信【再掲】(視点1②)	各図書館において最寄りの文化施設の図録や資料を設置するなど、文化施設と連携した情報発信		
		地元ゆかりの作家作品の充実【再掲】(視点1③)	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展時の開催		
		市立図書館における観光情報などの提供【再掲】(視点1⑧)	市民と観光客を対象にした、北九州市の魅力発信を行うため、 ・中央図書館では全市の観光情報を提供 ・地区図書館では周辺地域の観光情報や地域情報を提供		
【北九州市立図書館協議会による評価】					

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評価
3 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館	(1) 子どもの読書活動の推進	①子ども図書館の整備 完了事業	北九州市子ども読書活動推進条例で定められた、子どもの読書活動の推進拠点となる「子ども図書館」を整備し、子ども図書館にふさわしい図書・資料を充実	●子どもの読書活動の推進拠点となる子ども図書館の整備は、平成30年12月22日完了。	-
		②子ども図書館における子育て・家庭教育支援などの図書・資料の充実	子ども向けの絵本や図書・資料のみでなく、大人も利用できる、子育てや家庭教育支援用の図書・資料の充実	【取組状況】 ●子ども図書館の2Fに児童図書研究室を設け、引き続き大人向けの図書を収集した。 ※令和3年度末蔵書数5,561冊(令和2年度末:5,538冊) 【評価の理由】 ●家庭教育支援用の図書・資料の充実を図ることができたため、「B」評価と判断した。	B (B)
		③「はじめての絵本」事業の実施	出生前の早い時期から子どもの読書に関心をもってもらうため、母子健康手帳の交付時に絵本を配布する「はじめての絵本」事業を実施	【取組状況】 ●母子健康手帳の交付時に絵本パックの配布を行った。 ※配布率99.5%(99.4%) 【評価の理由】 昨年度同様、99%以上の方に配布することができたため、「A」評価と判断した。	A (A)
		④絵本の読み聞かせ、おはなし会などの実施	子どもが小さいときから読書に親しめる環境づくりを行うため、絵本の読み聞かせやおはなし会などを実施	【取組状況】 ●子ども図書館(10月から再開)や地区図書館・分館で、感染対策を行いながら、絵本の読み聞かせやおはなし会を実施した。前年度と比較すると、回数、参加者数ともに大幅に増加した。 【評価の理由】 ●コロナ禍であったが、回数、参加者数ともに回復傾向にあり、読書に親しむ環境づくりを行うことができたため、「B」評価と判断した。 【読み聞かせ・おはなし会実施状況】	B (B)
		⑤図書館における子ども向け相談窓口の充実	子どもたちが調べごとのために図書館へ来た時、気軽に相談できるように、子ども専用のレファレンス窓口を設け、調べ学習などが行いやすい環境を提供	【取組状況】 ●子ども図書館の受付カウンター2ヶ所にレファレンス窓口を設けるなど、各図書館で子どもの相談に応じる窓口を設けている。 【評価の理由】 ●調べ学習などで気軽に相談できる環境を引き続き提供できたため、「B」評価と判断した。	

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評価
		⑥調べ学習用図書・資料及び「調べ方マニュアル」の充実	小・中学校と連携して、それぞれの児童・生徒に応じた調べ学習用の図書・資料や調べ方マニュアルを充実	【取組状況】 ●各館において調べ学習用図書を積極的に購入している。 ●図書館ホームページ及び子ども図書館ホームページに、調べ方マニュアルを掲載している。(小学生・中学生向け) ●各図書館で、図書館の利用方法や本の探し方についてのリーフレットやパスファインダーを作成したり、既存の資料で内容を更新したものを、来館した児童生徒に配布した。 ●令和3年度には、子ども図書館ホームページに新たに「テーマ別資料リスト」を掲載した。 【評価の理由】 ●これらにより、調べ学習を支援することができたため、「B」評価と判断した。	B (B)
		⑦ヤングアダルト向け図書・資料の充実	読書から遠ざかりがちな中・高校生のために、ヤングアダルト向け図書・資料を充実	【取組状況】 ●各館において、ヤングアダルト世代に人気のある小説、ライトノベル、進路、思春期の悩み、生き方、考え方に関する本等を購入して充実を図るとともに、ヤングアダルトコーナーを設置した。 ●子ども図書館では、ホームページに「中高生(ティーンズ)向けのページ」を掲載するとともに、1F閲覧室にティーンズコーナーを設置し、ライトノベルや自己啓発、キャリア形成に役に立つ図書を充実させた。 【評価の理由】 ●これらにより、ティーンズ層を取り込む環境づくりを行うことができたため、「B」評価と判断した。	B (B)
		⑧家読(うちどく)の推進	家庭教育向上の基礎となる親子のコミュニケーションづくりの手段の一つとして家読を推進するため、推薦図書の情報提供や家読コーナーを設置	【取組状況】 ●地区図書館、分館において、家読コーナーを設置し、コーナーには、「家読ブックガイド」「おすすめ本リスト」を備え付け、家読に適したおすすめ図書の紹介や展示に取り組んだ。 ●子ども図書館では、保育所・幼稚園、学校に配布した「夏の読書カード」に、「家読にチャレンジ」というページを設け家読の周知に努めた。また、館内の特設コーナーに、読書カード及び発達段階に応じた「おすすめ本」を展示した。 【評価の理由】 ●これらにより、家読の推進を図ることができたため、「B」評価と判断した。	B (B)

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評 価												
		⑨地域人材の育成	地域で読み聞かせを積極的に行うため、地域で活動している団体などと協働して、中央図書館や地区図書館で研修を実施	【取組状況】 ●小倉南図書館では、読み聞かせ団体と共同イベントを開催した。 ●若松図書館では、若松区役所と読み聞かせボランティア育成事業を共催し、活動場所の提供を行った。 ●戸畑図書館では、高校生による読書会「戸畑ブッククラブ」を設立し、読書会の手法・効用などを学んでもらっている。 ●子ども図書館では、地域で読み聞かせを行う人材を育成するため、「読み聞かせ・読書ボランティア養成講座」(ストーリーテリング・ブックトーク)を実施した。読み聞かせ講座初級及び中級はコロナのため中止。 【評価の理由】 ●コロナで一部中止せざるを得ない講座もあったが、これらにより、地域人材の育成を図ることができたため、「B」評価と判断した。 【講座実施状況】 <table><tr><td></td><td>R2年度</td><td>R3年度</td></tr><tr><td>読み聞かせボラ養成初級</td><td rowspan="4">中止</td><td>中止</td></tr><tr><td>読み聞かせボラ養成初級</td><td></td></tr><tr><td>ストーリーテリング</td><td>1回・8人</td></tr><tr><td>ブックトーク</td><td>1回・1人</td></tr></table>		R2年度	R3年度	読み聞かせボラ養成初級	中止	中止	読み聞かせボラ養成初級		ストーリーテリング	1回・8人	ブックトーク	1回・1人	B (一)
	R2年度	R3年度															
読み聞かせボラ養成初級	中止	中止															
読み聞かせボラ養成初級																	
ストーリーテリング		1回・8人															
ブックトーク		1回・1人															
		⑩図書館職員の育成	地区図書館で、読み聞かせボランティアなどを養成する講座が実施できるような、図書館職員のスキルアップ	【取組状況】 ●福岡県立図書館主催の研修などに職員が参加した。 【評価の理由】 ●研修参加により、読み聞かせ技能などのスキルアップを図ることができたため、「B」評価と判断した。	B (B)												
		⑪地区図書館における区役所や市民センターなどとの連携	図書館職員や読み聞かせボランティアを市民センターや地域の子育てイベントなどに派遣し、子ども読書活動の推進につながる読み聞かせなどを積極的に実施	【取組状況】 ●戸畑図書館、新門司分館では、市民センターにリサイクル本コーナーを設置し、リサイクル本を提供した。 ●図書館には市民センターのイベント案内、市民センターには図書館だより、新刊案内を設置し、相互に集客について連携を行った。 ●子ども図書館や地区図書館において、区役所との共催イベント、区役所の「親子ふれあいルーム」や市民センターの講座などに、図書館職員(司書)や読み聞かせボランティアを派遣した。 【評価の理由】 ●コロナ禍においても、着実に連携して事業を実施しており、「B」評価と判断した。	B (B)												

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評 価								
		⑪ 北九州市子ども読書の日の新設 新規事業	全市的に子どもの読書活動の機運を高めるため、秋の読書週間に合わせ、市独自の「子ども読書の日」を新設	【取組状況】 ●秋の読書週間直前の10月の第4日曜日を「北九州市子ども読書の日」と定めた。 ●子ども図書館では、ボルダリング体験会、謎解きイベント、中学生によるビブリオバトルなど、趣向を凝らしたイベントを実施した。 ●地区図書館、分館でも、「北九州市子ども読書の日」に、おはなし会、ブックリサイクル、絵本リストの配布、読書ノートの配布など、様々なイベントを実施した。 ●学校では、当該日前後の2週間に読書に関する指導や取組を行った。 【評価の理由】 ●これまでになく視点でイベントを実施することでの来館のきっかけづくりや、中高生の活動発表する機会の提供など、大きな成果を生み出すことができたため、「B」評価と判断した。 【運営改善措置】 ●子ども図書館では、図書館に来たことがない子どもや保護者の来館を促すため、次年度は音楽などの新たな視点を加え、イベントの充実を図る。	B ()								
		地元ゆかりの作家作品の充実【再掲】 (視点1③)	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展示の開催										
		(2) 学校における読書活動の支援	⑫ 学校向け団体貸出の拡充	小・中学校において、学習の一助とするために、図書・資料の学校への貸出を積極的に実施	【取組状況】 ●学校図書館教育講習会などの場を活用し、「団体貸出等の学校向けサービス」について周知し、積極的な利用を呼びかけた。 【評価の理由】 ●コロナ前の水準とはいかないが、貸出冊数は前年度を上回ったので、「B」評価と判断した。 【団体貸出利用状況】 <table><tr><td></td><td>R2年度</td><td>R3年度</td></tr><tr><td>貸出団体数</td><td>495団体</td><td>692団体</td></tr><tr><td>貸出冊数</td><td>5,566冊</td><td>6,655冊</td></tr></table>		R2年度	R3年度	貸出団体数	495団体	692団体	貸出冊数	5,566冊
	R2年度	R3年度											
貸出団体数	495団体	692団体											
貸出冊数	5,566冊	6,655冊											

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評 価									
		⑬学校貸出 図書セットの 拡充	学校における読書活 動や調べ学習などを 推進するため、学年 別・テーマ別に選ん だ図書・資料を学級 文庫や教材として使 用する「学校貸出図 書セット」を、より学 校のニーズにあうよう に内容を充実	【取組状況】 ●「学校貸出図書セ ット」について、「防 災」の図書セットの 新設、希望の多い「 伝統文化」の図書セ ットの拡充など、内 容の充実を図った。 【評価の理由】 ●貸出件数は前年度 より減ったものの、 図書セットの内容を充 実し、学校における 読書活動や調べ学 習を支援することが できたため、「B」と 判断した。 【運営改善措置】 学校からの要望を受 け、学校貸出図書の セット数を増やすと ともに、セットの再 編を行う。 【学校貸出図書セ ット利用状況】 <table><tr><td></td><td>R2年度</td><td>R3年度</td></tr><tr><td>貸出セット数</td><td>93セット</td><td>96セット</td></tr><tr><td>貸出件数</td><td>101件</td><td>76件</td></tr></table>		R2年度	R3年度	貸出セット数	93セット	96セット	貸出件数	101件	76件	B (A)
	R2年度	R3年度												
貸出セット数	93セット	96セット												
貸出件数	101件	76件												
		⑭図書館司 書や読み聞 かせボラン ティアの学 校などへの 派遣	図書館司書や読み 聞かせボランティア などを学校に派遣 し、調べ学習や読 み聞かせなど、読 書に関する取組 みを支援	【取組状況】 ●新型コロナウイルス の影響で、学校等 が司書やボラン ティアの受入れを 控えており、派 遣件数は少ない が、前年度より は増加している。 ●子ども図書 館、地区図書館 では、派遣依頼 に基づき、図書 館司書や読み聞 かせボランティア を、学校、市民 センター、子育 て関連施設等に 派遣した。 【評価の理由】 ●派遣を依頼して きた学校や子育 て関連施設には 、希望に沿った ボランティア等 を選び派遣する ことができ、件 数も前年を上 回ったため、「B 」評価とした。 【学校等への派 遣件数】 <table><tr><td></td><td>R2年度</td><td>R3年度</td></tr><tr><td>司書派遣</td><td>1館2件</td><td>5館27件</td></tr><tr><td>ボラ派遣</td><td>3館7件</td><td>3館10件</td></tr></table>		R2年度	R3年度	司書派遣	1館2件	5館27件	ボラ派遣	3館7件	3館10件	B (B)
	R2年度	R3年度												
司書派遣	1館2件	5館27件												
ボラ派遣	3館7件	3館10件												
		⑮ 学校関係 者(教員、学 校図書館職 員など)の人 材育成支援	子どもに一番身 近な学校で読書 推進活動を行う 教員、学校図書 館職員などに対 して、図書館職 員が専門的な研 修を支援	【取組状況】 ●学校図書館教育 講習会において 、司書教員や学 校図書館職員に 対して、図書館 が行っている学 校向けサービス について説明を 行った。 ●市立図書館を 学習に活用でき る教職員を増や すために、学校 向けサービスを 分かりやすく紹 介するリーフレ ットの作成を行 った。 ●学校図書館を 所管している関 係課と連携し、 ブックヘルパー 向けの研修会を 実施した。 【評価の理由】 ●これらにより 、学校図書館職 員やブックヘル パーの資質向上 を図る支援をで きたため、「B」 評価と判断した。	B (B)									

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評 価																		
		⑩子ども司書の養成と活用	子どもたちの図書館への関心や読書への意欲を高めるため、 ・図書館で働く司書の仕事を学習する講座を開催し、子ども司書を育成 ・その子ども司書たちが学校で、読書活動推進のリーダー役となることを目指す	【取組状況】 ●7月から8月にかけて、4日間で「子ども司書養成講座」を開催した。 【評価の理由】 ●コロナ禍での開催ということで、募集人員の削減、開催期間の1日短縮などを行ったが、定員を上回る応募があり、参加者全員が修了(子ども司書認定証授与)することができたため、「B」評価と判断した。 【子ども司書養成講座参加状況】 <table><tr><th></th><th>R2年度</th><th>R3年度</th></tr><tr><td>小学校</td><td>28人</td><td>27人</td></tr><tr><td>中学校</td><td>5人</td><td>9人</td></tr><tr><td>合計</td><td>33人</td><td>36人</td></tr></table> ※R2年度は、秋のイベントで行った「子どもの図書館講座」の参加人数。		R2年度	R3年度	小学校	28人	27人	中学校	5人	9人	合計	33人	36人	B (B)						
	R2年度	R3年度																					
小学校	28人	27人																					
中学校	5人	9人																					
合計	33人	36人																					
		⑪小・中・特別支援学校児童生徒の読書感想文募集の実施	小・中・特別支援学校児童生徒が読書を通して得た喜びや感動を文章表現することで、ものの見方や考え方を深め、より豊かな感性を育むことを目的として、読書感想文募集を実施	【取組状況】 ●7月～9月にかけて、市内の小・中・特別支援学校に対し、読書感想文の募集を行った。 ●秋の「北九州市子ども読書の日」の新設に伴い、関連行事として本事業を位置づけ、表彰式を11月に前倒して実施した。 【評価の理由】 ●コロナ前の水準まで戻ってないが、出品数が増加したため、「B」評価と判断した。 【読書感想文表彰実績】 <table><tr><th></th><th>R2年度</th><th>R3年度</th></tr><tr><td>応募点数</td><td>10,179点</td><td>26,576点</td></tr><tr><td>学校数</td><td>142校</td><td>186校</td></tr><tr><td>優秀賞</td><td>28点</td><td>28点</td></tr><tr><td>優良賞</td><td>93点</td><td>93点</td></tr><tr><td>入選</td><td>1,095点</td><td>2,401点</td></tr></table>		R2年度	R3年度	応募点数	10,179点	26,576点	学校数	142校	186校	優秀賞	28点	28点	優良賞	93点	93点	入選	1,095点	2,401点	B (C)
	R2年度	R3年度																					
応募点数	10,179点	26,576点																					
学校数	142校	186校																					
優秀賞	28点	28点																					
優良賞	93点	93点																					
入選	1,095点	2,401点																					

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評 価									
		⑬小・中学校との連携	図書館と小・中学校との連携を図るため、図書館だよりの発行や小・中学生の図書館見学・職場体験の実施	【取組状況】 ●地区図書館、分館において、毎月「図書館だよりの発行」を作成し、近隣の小中学校などに配布した。 ●新たな「子ども読書プラン」では「小学校在学中の図書館見学の実施」を掲げ、校長会等を通じ、学校へ図書館見学の実施について依頼。子ども図書館と地区図書館が協力し、小中学生の図書館見学や職場体験を受入れた。 ●子ども図書館において、展示スペースを学校図書館用に確保し、小中学校の図書委員などが作成した本の紹介などの作品を展示した。 【評価の理由】 ●コロナ前の水準とはいかないが、実績が前年度を上回ったので、「B」評価と判断した。 【見学及び職場体験実施状況】 <table><tr><td></td><td>R2年度</td><td>R3年度</td></tr><tr><td>見学</td><td>11館62件2,246人</td><td>13館118件4,790人</td></tr><tr><td>職場体験</td><td>2館2件2人</td><td>2館4件11人</td></tr></table>		R2年度	R3年度	見学	11館62件2,246人	13館118件4,790人	職場体験	2館2件2人	2館4件11人	B (B)
	R2年度	R3年度												
見学	11館62件2,246人	13館118件4,790人												
職場体験	2館2件2人	2館4件11人												
【北九州市立図書館協議会による評価】														

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評価
4 誰もが使いやすい、人や情報が交流する図書館	(1) 情報化への対応	① Wi-Fiの整備	スマートフォンなど携帯端末の普及が進んでいるため、図書館のWi-Fi環境を整備	【取組状況】 ●令和3年度は新規に整備していない。 【評価の理由】 ●未整備の館に新たに整備することに着手・検討すら行わなかったことから、「D」評価とする。 【運営改善措置】 ●令和4年度に新築移転開館の折尾分館には、公衆無線LANを設置する。未整備の館については、図書館全体の予算執行状況を勘案しながら設置に努める。	D (B)
		② 中央図書館、地区図書館、子ども図書館におけるホームページの充実	利用者が見やすく、使いやすいホームページとなるように、 ・子ども図書館の開館にあわせ、ホームページを開設 ・中央図書館や地区図書館のホームページの見直し	【取組状況】 ●令和3年度は図書館ホームページの見直しは行っていない。 【評価の理由】 ●ホームページの見直しを行っていないため、「D」評価とする。 【運営改善措置】 ●令和5年に予定されている図書館システムの更新に合わせて改善し、見やすい・利用しやすいホームページを作成する。	D (B)
		③ 郷土資料のデジタル化への検討	資料のデジタル化に関する情報収集や研修などを行い、郷土資料のデジタル化を検討	【取組状況】 ●中央図書館では、過年度に、所蔵する郷土資料の一部(門司新報、福岡県布達集、小笠原文庫、古地図、写真など)をデジタル化や民間団体と協力したガラス乾板のデジタル化などを行い、利用者に提供している。 ●令和3年度は、中央図書館で、業務委託による若松石炭協会資料のデジタル化を行った。 【評価の理由】 ●郷土資料のデジタル化を継続して実施したため、「B」評価と判断した。	B (B)
		④ 子ども向け電子図書館の導入 新規事業	コロナ禍の読書や学習機会の確保等を目的に、子ども向け電子図書館の導入(子ども向け電子書籍貸出サービスの開始)	【取組状況】 ●子ども図書館では、令和3年4月23日(子ども読書の日)に「北九州市子ども電子図書館」を開設した。 ●利用促進のため、市立の小・中・特別支援学校の全児童生徒に学校を通じて、利用者IDを配付。 ●民間資金を活用し、蔵書の充実を図った。(40万円分、147冊) 【評価の理由】 ●これらにより、子どもたちに電子書籍の貸出ができる環境を整えることができたため、「A」評価と判断した。	A ()

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評 価
	(2)ニーズに 応じた サービスの 提供	④高齢者な どあらゆる人 が利用しや すいサービ スの充実	バリアフリー化や大活 字本の充実を図るな ど、高齢者を含め、あ らゆる人が利用しや すいサービスの充実	【取組状況】 ●中央図書館において、障害者就労支援施設の 協力による障害者サービス研修を実施した。 ●中央図書館では、「やさしい日本語」及び外国語 の利用案内リーフレットの配布や「やさしい日本語」 で書かれた図書資料の収集など、多文化サービスの 取組みを継続して行った。 ●各図書館において、高齢者や弱視者も読みやす い資料である「大活字本」収集の充実を図った。 ●中央図書館、小倉南図書館、八幡図書館では、 館内に拡大読書機を設置し、各館において拡大鏡 やリーディングトラッカーの館内貸出、コミュニケー ションボードの設置等を行っている。 ●各館において、障害のある方に配慮した資料 (LLブック、朗読CDなど)の収集を行った。 ●各館において、外国語資料の収集、提供を行っ た。 ●子ども図書館では、寝ころびスペースやベンチな ど多様な閲覧スペースを提供した(コロナ禍で一部 使用中止)。 【評価の理由】 ●これらにより、高齢者などあらゆる人が利用しや すい図書館サービスの充実に継続的に努めたた め、「B」評価と判断した。	B (B)
		⑤子ども用ト イレや授乳 室の設置	子どもと一緒に利用 しやすい図書館づく りを目指すため、図書 館整備にあわせ、子 ども用トイレや授乳室 を整備	【取組状況】 ●令和3年度は、新たな整備事業がないため取り 組んでいない。 【評価の理由】 ●整備事業がなかったことから評価を行わない。 【運営改善措置】。 ●令和4年度に移転開館する八幡図書館折尾分 館には授乳及びおむつ替えができる赤ちゃんの駅 を設置する。	— (B)
		⑥図書館以 外での本の 返却	利用者の利便性の向 上を図るため、駅など 図書館以外で本を返 却できるように、返却 ボックスを設置	【取組状況】 ●小倉駅構内及び黒崎駅に隣接するコムシティ入 口の2ヶ所に返却ボックスを設置(平成29年7月)し、 年末年始を除く毎日、利用に供している。 ●令和3年度は、前年度に比べ、利用数が大幅に 増加した。 【評価の理由】 ●コロナ禍による臨時休館等の影響により、貸出冊 数そのものが減少している中で、返却ボックスは一 定の利用があり、非来館型サービスのひとつとして 利用者の利便性向上に寄与していることから、「B」 であると判断した。 【返却ボックス利用状況】	B (B)

	R2年度	R3年度
小倉	18,776冊	27,165冊
黒崎	7,034冊	9,603冊

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評 価									
		⑦CD、DVD資料の貸出とその充実	図書館整備にあわせて、市民から要望のあるCDやDVDなど視聴覚資料の貸出コーナーを設置	【取組状況】 ●平成24年度以降、各地区館の新設・改修などに併せて、視聴覚資料(CD・DVD)の貸出を行える館を増やしており、令和3年度末現在、中央図書館、子ども図書館、地区館4館(小倉南、八幡、八幡西、戸畑)で館外貸出や館内閲覧の利用に供している。 ●特に子ども図書館では、家族や友だちと一緒に視聴できるスペースの確保も行っている。(令和2年度はコロナ禍で使用中止) ●令和2年度はコロナ禍の中、長時間滞在となりやすいCD・DVDの館内視聴は中止していたが、令和3年度には、館内視聴を再開した。 ●CD・DVDの購入については、継続して行い、資料の充実に努めた。 【評価の理由】 ●視聴覚資料の活用及び資料の充実について着実に取り組むことができたため、「B」評価と判断した。 【CD・DVD貸出所蔵点数(全館計)】 <table><tr><td></td><td>R2年度</td><td>R3年度</td></tr><tr><td>貸出点数</td><td>70,288点</td><td>81,887点</td></tr><tr><td>所蔵点数</td><td>17,941点</td><td>18,456点</td></tr></table>		R2年度	R3年度	貸出点数	70,288点	81,887点	所蔵点数	17,941点	18,456点	B (B)
	R2年度	R3年度												
貸出点数	70,288点	81,887点												
所蔵点数	17,941点	18,456点												
		⑧学習活動の場、設備、図書・資料などの提供	読書会や郷土史会など、市民の学習活動を推進するため、図書館の施設、設備、図書、資料などを提供	【取組状況】 ●各館における読書会等への活動支援については、コロナ禍により図書館内での会場の提供ができず中止とした館もあるが、例年に比べ実施回数を減らしたり資料提供のみ行ったりするなど、できる限り継続して取り組んだ。 ●小倉南図書館、若松図書館等で小中学校児童生徒の作品展示、調べ学習に役立つコーナー設置、資料リスト作成などを行った。 ●子ども図書館では、見学等で来館した学校の児童・生徒に対して、図書館利用の学習を行った。調べ学習に使う図書資料に関する相談を受け、資料の紹介や提供を行った。 【評価の理由】 ●コロナ禍により事業規模は縮小せざるを得ない状況であったが、継続して市民の学習活動に対する支援に努めたことから、「B」評価と判断した。	B (B)									

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評 価
	(3) 親しみ やすい図書 館づくり	⑨くつろいで 読書のできる 環境の充実	・カフェテリアを設ける など、くつろいで読書 ができるように図書館 の読書環境を整備 ・カフェテリアが街の にぎわいづくりに寄与 するように、イベントな どの企画を検討	【取組状況】 ●カフェについては、令和2年度に比べコロナ禍による休館日数が減ったことから、営業時間が増え、くつろいで読書できる環境を提供できた。 ●令和3年度は、文学館とカフェの仲介役となり、文学館企画展とのコラボメニューの開発に寄与した。 【評価の理由】 ●令和3年度は、文学館企画展とのコラボメニュー販売イベント実施など、くつろぎの場を求める来館者のニーズに応えたことから「B」評価と判断した。	B (C)
		⑩市立図書 館への来館 のきっかけづ くりの提供	これまで図書館に来ていない人が来館するきっかけとなるように、図書・資料の配架や開催する講座、イベントなどを見直し	【取組状況】 ●中央図書館では、コロナ禍による休館（予約本の受取り等限定的サービスのみ提供）中は、前年度同様、図書館カードの郵送交付を臨時的に実施し、図書館の新規利用を希望する市民に対応した。 ●八幡図書館では、近隣の公共施設や店舗と協働したイベント「やはたアートフォレスト」の開催により、図書館を含めた地域の回遊性を高める企画を実施した。 ●子ども図書館では、読書履歴を記録する「読書通帳」の運用を継続した。 ●子ども図書館では、令和3年度に新設した「北九州市子ども読書の日」に、ボルダリング体験会、謎解きイベント、中学生によるビブリオバトルなど、趣向を凝らしたイベントを実施した。地区図書館、分館でも、「北九州市子ども読書の日」に、おはなし会、ブックリサイクル、絵本リストの配布、読書ノートの配布など、様々なイベントを実施した。 ●その他各館において、近隣の自治会との協力により図書館だよりを回覧したり、小中学校・幼稚園・保育園、病院等各種施設に図書館だより、新刊案内、行事チラシ等を設置したりして広報に努めた。 【評価の理由】 ●コロナ禍の中であったが、「北九州市子ども読書の日」のイベント実施という新たな取組を開始することができたため、「A」評価と判断した。	A (B)
【北九州市立図書館協議会による評価】					

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評 価												
5 市民参画型図書館	(1)ボランティアの育成と活用	①読み聞かせボランティア養成講座の充実	読み聞かせボランティアの専門性を高めるため、ストーリーテリングやブックトークなどの技術を学ぶ講座を実施	【取組状況】 ●子ども図書館では、「読み聞かせ・読書ボランティア養成講座」(ストーリーテリング・ブックトーク)を実施した。読み聞かせ講座初級及び中級はコロナのため中止。 【評価の理由】 ●コロナで一部中止せざるを得なかったが、2講座開催することができたので、「B」評価と判断した。 【講座実施状況】 <table><tr><td></td><td>R2年度</td><td>R3年度</td></tr><tr><td>読み聞かせボラ養成初級</td><td rowspan="4">中止</td><td>中止</td></tr><tr><td>読み聞かせボラ養成初級</td><td></td></tr><tr><td>ストーリーテリング</td><td>1回・8人</td></tr><tr><td>ブックトーク</td><td>1回・1人</td></tr></table>		R2年度	R3年度	読み聞かせボラ養成初級	中止	中止	読み聞かせボラ養成初級		ストーリーテリング	1回・8人	ブックトーク	1回・1人	B (一)
			R2年度	R3年度													
		読み聞かせボラ養成初級	中止	中止													
読み聞かせボラ養成初級																	
ストーリーテリング	1回・8人																
ブックトーク	1回・1人																
②図書館ボランティアの育成	市民が図書館運営の担い手となるように、図書館において館内案内や配架などの図書館業務を行う図書館ボランティアを育成	【取組状況】 ●中央図書館では、図書館ボランティア養成講座を開催し、ほとんどの終了者は、希望の館においてボランティア活動に参加しているが、令和3年度は、コロナ禍により養成講座の受講人数を例年の半分程度とした。 ●ボランティア登録者数(令和4年度に向けた活動継続希望者)は前年度末よりも減少した。 【評価の理由】 ●令和3年度は、コロナ禍により、9か月間、事業が実施できなかったため、評価判断を行わないものとする。 【運営改善措置】 ●新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、ボランティア活動の制限緩和に向けた取組を行う。 【ボランティア養成状況】 <table><tr><td></td><td>R2年度</td><td>R3年度</td></tr><tr><td>養成講座修了者</td><td>—</td><td>26人</td></tr><tr><td>ボランティア登録者</td><td>263人</td><td>241人</td></tr></table>		R2年度	R3年度	養成講座修了者	—	26人	ボランティア登録者	263人	241人	— (一)					
	R2年度	R3年度															
養成講座修了者	—	26人															
ボランティア登録者	263人	241人															
③ブックヘルパーの人材育成支援	学校図書館で図書・資料の整理、補修や読み聞かせなどを行うブックヘルパーが活動しやすくなるように、図書館職員が研修を支援するなど、学校における読書活動に協力	【取組状況】 ●子ども図書館において、ブックヘルパー研修(12月)を開催した。なお、新型コロナの影響により、学校における読み聞かせボランティア研修(2月)は中止した。 【評価の理由】 ●参加者を制限しての開催となったが、学校図書館ボランティアの育成支援を行うことができたため、「B」評価と判断した。 【ブックヘルパー研修実施状況】 <table><tr><td></td><td>R2年度</td><td>R3年度</td></tr><tr><td>応募者</td><td>中止</td><td>33人</td></tr><tr><td>参加者</td><td>中止</td><td>33人</td></tr></table>		R2年度	R3年度	応募者	中止	33人	参加者	中止	33人	B (一)					
	R2年度	R3年度															
応募者	中止	33人															
参加者	中止	33人															

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	図書館 評 価
		④読み聞かせボランティアバンクの充実	読み聞かせなどを希望する子育て施設や学校に対し、ボランティア情報を迅速かつ的確に提供するため、 ・読み聞かせボランティアバンクの充実 ・地区図書館ごとのボランティアバンクの設立の検討	【取組状況】 ●「児童サービス担当者会議」等を通し、地区図書館や学校などで活動する読み聞かせボランティアの情報を、引き続き各地区図書館と共有した。 【評価の理由】 ●子どもの読書活動推進のためのネットワークの維持を図ることができたため、「B」評価と判断した。	B (B)
		地域人材の育成【再掲】 (視点3⑨)	地域で読み聞かせを積極的に行うため、地域で活動している団体などと協働して、中央図書館や地区図書館で研修を実施		
	(2)開かれた図書館づくり	⑤時代に即した図書館づくりを推進するための図書館協議会の充実	多様化する図書館へのニーズに対応し、効率的で効果的なサービスが提供できるように、図書館協議会の充実に努め、時代に即した図書館づくりを推進	【取組状況】 ●令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、1回の開催となった。 【評価の理由】 ●新型コロナウイルス感染症の影響もあり、前年度以上の取組みは出来なかった。一方、Webや書面で実施することも可能であったことから評価を「C」とした。 【運営改善措置】 ●年1回の開催では、協議会の意見を十分くみ取ることができないため、対面で複数回開催できるように努める。対面開催が不可能な場合は、Webや書面での開催を行うこととする。	C (B)
		⑥運営に関する評価の実施	図書館運営に関する評価を行い、広く公表するとともに、運営の改善を実施	【取組状況】 ●PDCAマネジメントサイクルの結果をわかり易くするため、令和3年度より「取組状況」「評価の理由」に加え、新たに「運営改善措置」を追加し、具体的な改善措置を実施する(予定を含む)ようにした。 【評価の理由】 ●図書館法の評価の本来の趣旨である「運営改善措置」を明記することにより、改善の有無や過程を広く利用者に示せるようになった(行政の透明化)。また、これにより図書館の改善を促す効果も期待できることから、新たな取り組みとして評価を「A」とした。	A (B)
	【北九州市立図書館協議会による評価】				